

みやびな嵐山で絶句！

嵐山に到着した我々取材陣は、大覚寺行きのバスに乗るため、京福嵐山駅に移動した。そこでおりしも小雨が降り出したので、バスが到着するまでの間、嵐山駅構内で所在なくたむろすることになった。そこで……

「あ、あれは何だ！」

取材陣の一人が道路向かいの中空を指さして叫んだ。

取材陣は一斉に道路向かい側に目をやった。お土産屋が軒を並べる道路沿いからひとつ奥まった位置に、明らかに雅な京の風情をぶち壊しにするど派手な看板が。それには「ムチゴロウの動物王国」と大きく描かれている。

明らかに「ムツゴロウの動物王国」のパロディだ。

「なんなんだ！あれは？」

「京都の美観を損ねるゆゆしき看板だ！」

「ゆるせん！月に代わってお仕置きだ！」

怒りにふるえた取材陣の面々は、小雨をものともせず、けしからん看板の元へと向かう。

道路を渡り土産物屋を回り込むように行くと、袋小路になっている広場があり、そこにけしからん看板の店はあった。ちょうど「北野インド会社」の軒並びだ。

「うっ！」「こ、これは！」

「ここは本当に嵐山なのか？」

駆けつけた取材陣は、そこに繰り広げられていた光景に、驚き絶望した。

そこには件の「ムチゴロウの動物王国」以外にも「妖怪寺肝だめし」「アマゾン釣りアリゲイター」という2軒があり、3軒が軒を並べて異様な雰囲気醸し出していたのだ。



これも京都嵐山なのか

「絶句……」

「今までけっこうズンドコな物を見てきたが、これほどの物は……」

ベニヤを張り合わせただけの、間に合わせのような入り口。まるで文化祭の模擬店だ。どうやら普通の民家の軒先を改造しただけのものようだ。

さて「ムチゴロウ」であるが、入り口の表記にこうある。

「動物園にいない珍しい動物と記念撮影や触ったりできます。」

何か文法が変だぞ。それよりも動物園にいない珍しい動物とは、どんな動物なんだろうか。まさかワシントン条約で取引が禁止されているよーな珍しい動物ではあるまいな？

さらに「話のタネに京都のショッキングな思い出に」とある。

いやだなあ、みやびな風情を楽しみに来たのにショッキングな思い出なんかなあ。

となりの「肝だめし」「アマゾン釣り」も同様。肝だめしは、まあ内容が知れてるが、アマゾン釣りとは何なのであろう？

なぜ店名は「アリゲイター」なのだろう？疑問は尽きない。

時間が早かったためどの店も準備中だったので、詳しいことを知る術がないのが残念だ。もし今度、嵐山に行くことがあれば、真っ先にこの地を訪れ、経営者に対し、いったい京都の伝統文化をどう思っているのか問いただし、返答によっては、閉業もしくは移転を要求するつもりだ。WOO取材班としては、2000年の歴史を誇る京の伝統としっとりとした嵐山の雰囲気をおぶち壊しにするものを許すわけにはいかない。

我々は眉をひそめながら現地を後にした。

というのはウソです。ほんまは入ってみたいくてしかたなかったけど、時間が無くて見れませんでした。残念だなあ（特にムチゴロウは見たかったなあ）。



京の雅な雰囲気をおぶち壊しにする看板に怒りを表す取材陣

この項終わり